

<p>1 会(あ)いは別(わか)れの始(はじ)め</p>	<p>出(で)会(あ)いの後(あと)には必(かなら)ず別(わか)れがある(あ)るので、会(あ)うこと(こと)は分(わか)れること(こと)の始(はじ)まり(まり)でもあ(あ)る。人(じん)生(せい)のお(お)な(な)し(し)さ(さ)を(を)表(あらわ)した(した)言(ことば)葉(は)。</p>
<p>2 秋(あき)茄(な)子は(す)嫁(よめ)に食(く)わすな</p>	<p>秋(あき)のな(な)す(す)は美(お)味(あじ)しく(く)ても(も)た(た)い(い)ない(ない)から、(また)は、体(からだ)を(を)冷(ひ)や(や)す効(き)果(く)が(が)あ(あ)る(る)から(から)嫁(よめ)に食(く)わ(わ)さ(さ)せ(せ)て(て)は(は)い(い)け(け)ない(ない)。</p>
<p>3 頭(あたま)隠(かく)して(して)尻(しり)隠(かく)さ(さ)ず</p>	<p>悪(あく)事(じ)や欠(け)点(てん)を(を)す(す)べ(べ)て(て)隠(かく)し(し)通(とお)した(した)お(お)も(も)っ(っ)て(て)い(い)て(て)も、実(じ)際(さい)に(に)は(は)そ(そ)の(の)一(いち)部(ぶ)し(し)か(か)隠(かく)せ(せ)て(て)い(い)ない(ない)こと(こと)の(の)た(た)と(と)え(え)。</p>
<p>4 頭(あたま)上(うへ)の(の)蠅(はえ)を(を)追(お)え</p>	<p>人(ひと)の心(こころ)配(ばい)を(を)す(す)る(る)よ(よ)り(り)も、ま(ま)ず(ず)は(は)自(じ)分(ぶん)の(の)こと(こと)を(を)し(し)っ(っ)か(か)り(り)し(し)な(な)さい(さい)、と(と)い(い)う(う)こと(こと)。人(ひと)の(の)世(せ)話(わ)を(を)焼(や)き(き)た(た)が(が)る(る)人(ひと)な(な)ど(ど)に(に)使(つか)う(う)。</p>
<p>5 当(あ)た(た)る(る)も(も)八(は)卦(け)当(あ)たら(ら)ぬ(ぬ)も(も)八(は)卦(け)</p>	<p>占(う)いは(は)当(あ)た(た)る(る)こと(こと)も(も)外(はず)れる(る)こと(こと)も(も)あ(あ)る(る)ので、結(け)果(く)を(を)気(き)にし(し)ず(ず)ぎ(ぎ)て(て)は(は)い(い)け(け)ない(ない)こと(こと)。</p>
<p>6 あ(あ)ち(ち)ら(ら)立(た)て(て)れ(れ)ば(ば)こ(こ)ち(ち)ら(ら)が(が)立(た)た(た)ぬ(ぬ)</p>	<p>も(も)の(の)ご(ご)と(と)を(を)、二(ふた)つ(つ)の(の)立(た)ち(ち)場(ば)の(の)両(りやう)方(ほう)を(を)満(まん)足(そく)さ(さ)せ(せ)ら(ら)れる(る)よ(よ)う(う)に(に)す(す)る(る)の(の)は(は)難(むず)しい(い)、と(と)い(い)う(う)こと(こと)。</p>
<p>7 暑(あつ)さ(さ)寒(さむ)さ(さ)も(も)彼(ひ)岸(が)ま(ま)で(で)</p>	<p>夏(なつ)の暑(あつ)さ(さ)や(や)冬(ふゆ)の寒(さむ)さ(さ)は、彼(ひ)岸(が)の(の)頃(ころ)に(に)は(は)和(やわ)らい(い)で、過(す)ご(ご)し(し)や(や)す(す)く(く)な(な)る(る)と(と)い(い)う(う)こと(こと)。</p>
<p>8 後(あと)は(は)野(の)と(と)な(な)れ(れ)山(やま)と(と)な(な)れ(れ)</p>	<p>目(め)先(さき)の(の)問(もん)題(だい)さ(さ)え(え)片(かた)付(け)は、あ(あ)と(と)は(は)ど(ど)う(う)な(な)っ(っ)て(て)も(も)か(か)ま(ま)わ(わ)な(な)い(い)。な(な)る(る)よ(よ)う(う)に(に)な(な)れ(れ)、と(と)い(い)う(う)無(む)責(せき)任(にん)な(な)態(たい)度(ど)。</p>
<p>9 あ(あ)ば(ば)た(た)も(も)え(え)く(く)ぼ(ぼ)</p>	<p>好(す)き(き)に(に)な(な)る(る)と、相(あ)い(い)て(て)の(の)欠(け)点(てん)ま(ま)で(で)も(も)が(が)長(ちやう)所(じよ)に(に)見(み)え(え)て(て)し(し)ま(ま)う(う)と(と)い(い)う(う)こと(こと)。</p>
<p>10 虻(あぶ)蜂(は)取(と)ら(ら)ず(ず)</p>	<p>二(ふた)つ(つ)の(の)物(もの)を(を)両(りやう)方(ほう)手(て)に(に)入(い)れ(れ)よう(よう)と(と)し(し)て、ど(ど)ち(ち)ら(ら)も(も)取(と)り(り)逃(のが)す(す)こと(こと)。欲(よく)張(は)り(り)ず(ず)ぎ(ぎ)て(て)失(し)敗(ぱい)す(す)る(る)こと(こと)。</p>
<p>11 雨(あめ)降(ふ)っ(っ)て(て)地(ぢ)固(かた)まる(まる)</p>	<p>争(あそ)い(い)ご(ご)と(と)や(や)悪(わる)い(い)こと(こと)が(が)起(お)こ(こ)った(た)後(あと)に(に)は、か(か)え(え)っ(っ)て(て)物(もの)事(こと)が(が)う(う)ま(ま)く(く)い(い)く(く)こと(こと)。</p>
<p>12 案(あん)ず(ず)る(る)よ(よ)り(り)産(う)む(む)が(が)易(やす)し(し)</p>	<p>や(や)る(る)前(まえ)か(か)ら(ら)あ(あ)れ(れ)こ(こ)れ(れ)と(と)心(しん)配(ばい)し(し)て(て)い(い)た(た)物(もの)事(こと)も、実(じ)際(さい)に(に)や(や)っ(っ)て(て)み(み)る(る)と、思(おも)っ(っ)て(て)い(い)た(た)よ(よ)り(り)も(も)た(た)や(や)す(す)い(い)も(も)の(の)だ(だ)と(と)い(い)う(う)こと(こと)。</p>
<p>13 石(いし)の(の)上(うへ)に(に)も(も)三(さん)年(ねん)</p>	<p>つ(つ)ら(ら)く(く)て(て)大(たい)変(へん)な(な)こと(こと)で(で)も、辛(しん)抱(ぼう)し(し)て(て)続(つづ)け(け)れ(れ)ば(ば)い(い)っ(っ)か(か)は(は)成(せい)功(こう)す(す)る(る)。</p>
<p>14 石(いし)橋(はし)を(を)た(た)た(た)い(い)て(て)渡(わた)る(る)</p>	<p>用(よう)心(しん)を(を)重(かさ)ね(ね)て、物(もの)事(こと)を(を)慎(しん)重(じゆう)に(に)行(おこな)う(う)こと(こと)の(の)た(た)と(と)え(え)。</p>
<p>15 医(い)者(しゃ)の(の)不(ふ)養(よう)生(せい)</p>	<p>人(ひと)に(に)は(は)立(り)派(ぱ)な(な)こと(こと)を(を)言(い)っ(っ)て(て)お(お)き(き)な(な)が(が)ら、自(じ)分(ぶん)は、そ(そ)れ(れ)を(を)実(じ)践(けん)し(し)て(て)い(い)ない(ない)こと(こと)の(の)た(た)と(と)え(え)。</p>
<p>16 い(い)ず(ず)れ(れ)菖(あ)蒲(や)か(か)杜(か)若(わづ)若(わづ)若(わづ)</p>	<p>ど(ど)ち(ち)ら(ら)も(も)優(すぐ)れて(て)い(い)て、優(ゆう)劣(れつ)が(が)つ(つ)け(け)ら(ら)れ(れ)ない(ない)こと(こと)。</p>
<p>17 急(いそ)が(が)ば(ば)回(まわ)れ(れ)</p>	<p>危(き)険(けん)な(な)近(か)み(み)道(みち)を(を)通(とお)る(る)よ(よ)り、遠(とほ)回(まわ)り(り)でも(も)確(か)定(てい)な(な)道(みち)を(を)通(とお)る(る)方(ほう)が(が)早(はや)く(く)目(め)的(てき)的(てき)に(に)着(つ)く(く)。</p>
<p>18 一(いち)事(じ)が(が)万(ばん)事(じ)</p>	<p>あ(あ)る(る)一(ひと)つ(つ)の(の)こと(こと)を(を)見(み)れば、ほ(ほ)か(か)の(の)す(す)べ(べ)て(て)の(の)こと(こと)も(も)推(すい)察(さつ)でき(き)る(る)、と(と)い(い)う(う)こと(こと)。</p>
<p>19 一(いち)難(なん)去(き)っ(っ)て(て)ま(ま)た(た)一(いち)難(なん)</p>	<p>次(つぎ)か(か)ら(ら)次(つぎ)へ(へ)と(と)災(さい)難(なん)が(が)や(や)っ(っ)て(て)く(く)る(る)こと(こと)。</p>
<p>20 一(いち)富(ふ)士(し)二(に)鷹(たか)三(さん)茄(な)子(す)び</p>	<p>初(はつ)夢(め)に(に)見(み)る(る)と(と)縁(えん)起(ぎ)が(が)い(い)と(と)さ(さ)れる(る)もの(もの)を、順(じゆん)に(に)並(なら)べ(べ)た(た)言(こと)葉(は)。</p>

21 一寸先は闇

将来のことは、ちよつとききのことでも全くわからないということ。

22 一寸の虫にも五分の魂

小さくて弱い者にも相応の意地があるのだから、どんな相手であってもあなどってはいけない、ということ。

23 言わぬが花

口に出して言わない方が、味があるということ。また口に出すと差し障るので言わないほうがいい。

24 魚心あれば水心

相手が好意を示すのならば、自分もそれに応じて、好意をもって対応しよう、ということ。

25 牛にひかれて善光寺参り

思わぬ偶然や他人の誘いで、良い結果を得たり、良いほうへと導かれること。

26 氏より育ち

家柄の良さなどよりも育った環境のほうが、その人の人間性に大きく影響し、大切だということ。

27 嘘から出た誠

嘘で言っただけのことが、たまたま実現してしまうこと。

28 嘘つきは泥棒の始まり

平気度うそをつくようになると、やがては盗みも平気でするようになる。だから嘘はついてはいけないということ。

29 嘘も方便

物事を順調に進めるためには、時と場合によっては嘘をつくことも必要だということ。

30 鵜の真似をする鳥

カラスが鵜を真似て魚を捕ろうとしても、うまくいかない。身の程をわきまえず、人の真似をして失敗すること。

31 馬の耳に念仏

人の意見や忠告を聞き流してしまい、何とも思わないことのとえ。

32 瓜の蔓に茄子はならぬ

平凡な親からは平凡な子供しか生まれないことのとえ。

33 噂をすれば影

誰かの噂をしていると、その本人が現れることがあるということ。

34 江戸の敵を長崎で討つ

意外なところで、昔の恨みを晴らすことのとえ。

35 海老で鯛を釣る

少しの元手や努力で、大きな利益を得ることのとえ。

36 縁の下の力持ち

人に知られないところで他人のために努力や苦勞をすること。また、そのような人。

37 驕る平家は久しからず

思い上がってわがままに振る舞うものは、いつまでも栄えていることはできずに、勢力も衰えて滅びるということ。

38 小田原評定

意見が分かれていて、なかなかまとまらない相談や会議。

39 鬼に金棒

もともと強い存在が、何かを得ることでさらに強力になることのとえ。

40 鬼の居ぬ間に洗濯

怖い人やうるさく注意してくる人がいない間に、のんびりくつろぐこと。

41 鬼の霍乱

普段は丈夫で病氣にかかりそうにない人が、珍しく病氣にかかること。

42 鬼の目にも涙

無慈悲で鬼のような人でも、時には同情したり、かわいそうに思ったりして涙をながすことのとたとえ。

43 帯に短したすきに長し

物事が中途半端で何にも使えず、役に立たないこと。

44 溺れる者は藁をもつかむ

非常に困ったり苦しんだりしている人が、頼りになりそうにないものにもすがろうとすることのとたとえ。

45 思い立ったが吉日

物事を始めようと決心したら、始める日を選ばずに、すぐに始めたほうが良いということ。

46 親の心子知らず

親の子どもへの愛情を知らないで、子どもは好き勝手にふるまうものだということ。

47 蛙の子は蛙

平凡な親からは平凡な子どももしくは生まれにくいということ。子どもの才能などは、結局は親に似るものだということ。

48 蛙の面に水

どんな目にあっても、何も感じていないかのように平気である様子。

49 風が吹けば桶屋が儲かる

ある出来事が巡り巡って思わぬ結果を生じること。また、当てにならないことに期待をすること。

50 風邪は万病の因

風邪を引くと体が弱り、他の病氣にかかりやすくなるので、軽く見えてはいけないということ。

51 火中の栗を拾う

自分の利益にならないのに、あえて他人のために危険なことをするたとえ。

52 勝って兜の緒を締めよ

たとえ物事が思い通りにうまくいっても、気を緩めてはいけないということ。

53 河童の川流れ

何かの名人であっても、油断したりして、時には失敗するということ。

54 勝てば官軍

最終的に勝ったほうが理屈抜きで正義となり、負けたほうがすべて悪いということになるのが世の常だということ。

55 金は天下の回りもの

お金は人から人へと渡っていくので、今は貧しくてもいつかは回ってきたり、入ってきたお金は出ていく物だ。

56 壁に耳あり障子に目あり

隠し事はとにかく漏れやすいものだから、注意したほうがいいという戒め。

57 果報は寝て待て

運は人の力ではどうすることもできないので、焦らずに待っていた方が幸運はやってくるものだということ。

58 亀の甲より年の功

年長者が身に付けた長年の経験や豊富な知識は大事にするべきだということ。

59 鴨が葱を背負ってくる

鴨が葱を背負ってきたら、すぐに鴨鍋ができるように、都合が重なり、さらに都合がいいことのとたとえ。

60 枯れ木も山の賑わい

つまらない、あるいは役に立たない物でも、無いよりはあったほうがましだということのとたとえ。

61 かわいい子には旅をさせよ

聞いて極楽見て地獄

63 聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥

64 雉も鳴かずば撃たれまい

65 九死に一生を得る

66 清水の舞台から飛び降りる

67 木を見て森を見ず

68 腐っても鯛

69 口は災いの元

70 苦しい時の神頼み

71 君子危うきに近寄らず

72 芸は身を助ける

73 犬猿の仲

74 喧嘩両成敗

75 光陰矢のごとし

76 後悔先に立たず

77 孝行のしたい時分に親は無し

78 郷に入っては郷に従え

79 弘法にも筆の誤り

80 弘法筆を選ばず

甘やかして育てるよりも、世の中でつらくて苦しい体験をさせたほうが、愛する子どものためになるといこと。
人から話に聞いたものを実際に見てみると、聞いていたことと大きく違っていること。

知らないことを聞くことは、その時に恥をかくだけだが、知らないままだと一生恥ずかしい思いをすることになる。
鳴いたがために撃たれた雉のように、必要のないことをした結果、災難を招いてしまうこと。

まず助からないだろうという危険な状態から何とか助かること。
うまくいくかはわからないことでも、思い切つて決断を下すことのたとえ。

物事の些細な事ばかり注意していると全体を見失うということ。
価値あるものは多少条件が悪くなくてもそれなりの価値はある。

自ら話したことが災いを招くこともあるので、余計な発言は慎んだ方がよい。
信じていない神様や、あまり付き合ひのない人などに、困った時だけ頼ろうとすること。

立派な人は、常に慎重に行動して、軽はずみなことはしないものなので、危険なことには初めから近寄らない。
身につけた技能はいざと言うときに役立つことがある。

犬と猿のように、二者の仲がとても悪いことのたとえ。
喧嘩をしたものは、どちらが悪いかに関係なく、どちらも同じように罰を与えるべきだということ。

月日がたつのがとても速いことのたとえ。また、時間を無駄にしてはいけないという戒め。
すでにしてしまった失敗を後で後悔しても取り返しがつかない。だから後悔しないように注意しなさい。

親のありがたみが解る頃には、すでに亡くなっているものだ。だから、親が元気なうちに孝行したほうが良い。
うまく世渡りするためには、その土地ごとの習慣に合わせて生活するのがよいということ。

どんなに優れた人物でも、失敗することはあるというたとえ。
優れた名人・達人は、道具のよしあしに関係なく立派な仕事をやるものだということ。

81 紺屋の白袴

自分の技能は他人にばかり使っていて、自分の事には使われていないことのとたとえ。

82 転ばぬ先の杖

失敗しないように、あらかじめ十分に用心しておくこと。また、そのような用心が大切だということ。

83 先んずれば人を制す

人より先に行動すれば、有利になって相手を制することができるということ。

84 猿も木から落ちる

どんなに優れた人物でも、失敗することはあるということ。

85 触らぬ神に祟りなし

余計な災難にあわないために、余計なことには手出ししない方がいい。

86 山椒は小粒でもびりりと辛い

体は小さくても、意志が強くて才能もあり、あなどることができない者のたとえ。

87 三人寄れば文殊の知恵

一人ではよい考えが浮かばない凡人でも、三人集まって考えれば、すばらしい知恵が浮かんでくるということ。

88 地獄の沙汰も金次第

世の中は、お金さえあればなんでも自由にできるということ。

89 親しき仲にも礼儀あり

どんなに親しい仲でも、遠慮がなくなると喧嘩の原因になるから、それなりの礼儀を守って付き合うべきだ。

90 失敗は成功の基

失敗したとしても、反省して、失敗の原因を改善すれば、成功へとつながる。やがては成功するものだということ。

91 朱に交われれば赤くなる

人は付き合う友人や周りの環境によって、良くも悪くもなるものだということ。

92 初心忘るべからず

物事に慣れて怠けたりすることのないように、それを始めたときの心構えや決心は忘れずにいるべきだということ。

93 知らぬが仏

知ったら腹が立つようなことでも、知らないままであれば平気でいられるということ。

94 好きこそものの上手なれ

好きなことには自然とやる気がでてくるから、上手になるということ。

95 住めば都

不便な場所でも長く住めば慣れて、良いと思えるようになるということ。

96 急いては事を仕損じる

焦って事に当たると失敗しやすい。

97 梅檀は双葉より芳し

大人になって大成するような人は、子どもの時から並外れて優れているということ。

98 善は急げ

良いと思ったことは、ためらわずに急いでやるべきだ。

99 袖振り合うも多生の縁

些細なことも何らかの因縁によって結ばれているものだ。

100 泰山鳴動して鼠一匹

前触れが大きい割に、大したことはない結果に終わること。

101 ただより高いものはない

ただで物をもらうと、お礼にお金がかかったり、その人に頼みごとをされたりと、かえって高くつくということ。

102 立っているものは親でも使え

急ぎの用事があるときには、たとえ親であったとしても、そばで立っている人に頼むべきだ。

103 立つ鳥跡を濁さず

立ち去るときの後始末は、見苦しくないようにきちんとするべきだということ。

104 蓼食う虫も好き好き

辛い蓼を好む虫もいるように、人の好き嫌いはさまざままだということ。

105 棚からぼた餅

予想もしていなかった幸運が舞い込むことのたとえ。

106 旅の恥はかき捨て

旅先には自分を知る者もいないので、恥ずかしい行いも平気でしてしまおう。

107 旅は道連れ世は情け

一人で旅するよりも同行者がいたほうが心強いように、世の中でも互いに助け合い生きることが大切だということ。

108 玉磨かざれば光なし

才能や素質があっても努力なくして真価を発揮することはできない。

109 短気は損気

短気を起こすと、いらいらしたり、他人と衝突したりして、損をすることになる。

110 提灯に釣り鐘

形は似ているが実際は違いすぎて比較にならないこと。つり合いがとれないこと。

111 塵も積もれば山となる

小さなことも継続すれば膨大なものとなる。だから小さなこともおろそかにするべきではない。

112 沈黙は金、雄弁は銀

うまく話すことも重要だが、それ以上に沈黙していることの方が価値があることもある。

113 月とすっぽん

二つの物が、形は似ていても、比べられないくらいに差があることのたとえ。

114 角を矯めて牛を殺す

少しの欠点を直そうとしてやりすぎてしまい、かえって全体をだめにしてしまうこと。

115 鶴は千年、亀は万年

寿命が長くて、めでたいことのたとえ。

116 敵は本能寺にあり

本当の目的が全く別のところにあることのたとえ。

117 鉄は熱いうちに打て

① 考え方の柔軟な若いうちに鍛えておいた方が良い。② 情熱を持って事に当たれる時期を逃してはいけない。

118 出る杭は打たれる

才能があって抜きん出ている人や、でしゃばっている人は、嫉妬されたり、憎まれたりすること。

119 天は二物を与えず

天は一人の人間に、たくさん長所や才能を与えることはないということ。

120 灯台下暗し

身近なことほど案外気づきにくいものだ。

121 豆腐にかすがい

何の効果も反応もないことのとたとえ。

122 遠い親戚より近くの他人

いざというとき頼りになるのは、遠くにいる親戚ではなく、日ごろ付き合っている近所の他人だということ。

123 時は金なり

時間はお金と同じように貴重なものだから、無駄に使ってはいけない。

124 所変われば品変わる

その土地によって言葉や習慣は違うものだということ。

125 年寄りの冷や水

年寄りが、年齢に合わない無理や無茶をすることのたとえ。

126 隣の花は赤い

他人の物は自分のものよりもよく見えて、うらやましく思う。

127 取らぬ狸の皮算用

まだ決まっていなことを当てにして、計画を立てたり、利益を考えたりすること。

128 どんぐりの背比べ

どれも似たようなものばかりで、大した違いがないこと。

129 飛んで火にいる夏の虫

自分から進んで危険を冒し、災難を招くこと。

130 鳶が鷹を生む

平凡な親が、才能のある優れた子どもを産むことのとたとえ。

131 鳶に油揚げをさらわれる

大切なもの、または自分のものになると思ったものを、いきなり横からうばわれること。

132 長いものには巻かれる

権力のある人や目上の人には、逆らうよりも従ったほうが得だということ。

133 泣きっ面に蜂

不運なことの上に、さらに不運なことが続けて起こること。

134 泣く子と地頭には勝てぬ

理屈の通じない者や権力者などには、いくらこちらが正しくても勝てないから、従うしかないということ。

135 なくて七癖

どんな人でも、多かれ少なかれ、何か癖をもっているということ。

136 情けは人のためならず

人に親切にすると、巡り巡って自分にいい報いがかえってくるので、自分のためにもなるということ。

137 七転び八起き

何回失敗してもくじけずに、勇気を出して立ち上がること。

138 怠け者の節句働き

普段怠けている者ほど他人が休んでいるときに限って忙しそうにするものだ。

139 生兵法は大怪我の元

中途半端な知識・技術はかえって失敗のもとである。

140 習うより慣れる

物事は、人や本から教わるよりも、体験として実際に経験した方が身につく。

141 二階から目薬

思うようにならなくてもどかしいこと。全く、効き目のないこと。

142 逃がした魚は大きい

もう少しで手に入る、というところで逃がしたものは、実際よりも立派だったように思えるということ。

143 憎まれっ子世にはばかる

人から嫌われるような人に限って、世間では幅を利かせているものだ。

144 逃げるが勝ち

時には、戦わずに逃げる方が、結果的に得になるということ。

145 二兎を追うものは一兎をも得ず

欲張って一度に二つのことをしようとしても、結局どちらもうまくいかないということ。

146 糠に釘

手ごたえがなく効果もないこと。

147 濡れ手で粟

ほとんど苦労もせずに大もうけすることのたとえ。

148 猫に鯉節

油断できない状況。危険な状態。

149 猫に小判

価値のわからない者に貴重な品を与えても、何の役にも立たないことのたとえ。

150 能ある鷹は爪を隠す

実力や才能のある者ほど、それをおやみに見せびらかさうとはしない。

151 喉元過ぎれば熱さを忘れる

苦しく辛い出来事も、過ぎ去ってしまったえばその苦しさを忘れてしまう。

152 暖簾に腕押し

少しも手ごたえがないこと。

153 花より団子

風流を楽しむよりも実益を取る方が良いというたとえ。見かけよりも実質を取ること。

154 早起きは三文の徳

早起きをする、健康に良かったり、仕事がかどったりと、なにかとよいことがある。

155 腹八分目に医者いらす

食事を食べ過ぎずに控えめにしておけば、健康を保てるということ。

156 必要は発明の母

必要なものを作ろうと工夫することから、発明が生まれるということ。

157 人のうわさも七十五日

世間は忘れやすくだんな噂も長続きはしない。

158 人の口には戸が立てられない

世間でうわさ話が広がることを防ぐことはできないということ。

159 人のふり見てわがふり直せ

他人の行いを見て自分の行いを反省し、悪いところはなおしなさいということ。

160 人は見かけによらぬもの

人の本当の性格や実力は、外から見ただけではわからないということ。

161 人を呪わば穴二つ

他人に害を与えようとすれば、やがて自分もその報いをうけるといふこと。

162 人を見たら泥棒と思え

他人を簡単に信用してはいけない。まずは用心しろということ。

163 火のない所に煙は立たぬ

噂をされるからには、必ず何かの原因、事実があるだろうということ。

164 百害あって一利なし

害になることばかりあって、利益になるような良いことが何も無いこと。

165 ひょうたんから駒が出る

思いがけないところから意外なものが出る。冗談が現実となる。

166 貧すれば鈍する

貧しくなると頭も鈍くなる。

167 貧乏暇なし

貧乏な人は生活に追われ、暇がないということ。

168 夫婦喧嘩は犬も食わない

夫婦喧嘩の原因は些細なことであったり、一時的なものだから、他人が心配する必要はないということ。

169 笛吹けども踊らず

準備を整えて、さかんに誘っているのに、誰もそれに応じようとしないことのとえ。

170 豚に真珠

価値のわからない人に貴重な品を与えても、何の役にも立たないことのとえ。

171 下手な鉄砲も数撃ちや当たる

何度もあれこれ試してみれば、偶然うまくいくこともあるということ。

172 下手の考え休むに似たり

良い考えが浮かばないのに長い時間考えるのは、時間の無駄だということ。

173 下手の横好き

下手なくせに、そのことをするのが好きで熱中すること。

174 蛇ににらまれた蛙

強敵や苦手なものなどの前で、恐ろしさから身がすくみ、動けない様子。

175 ペンは剣よりも強し

優れた文章は世の人々を動かし、武力よりも強い力を持つということ。

176 仏作って魂入れず

苦勞して完成させた物事に、一番大事なところが抜けていて、役に立たないこと。

177 仏の顔も三度

どんなに温厚な人でも、何回もひどいことをされると、最後には怒りだすということ。

178 骨折り損のくたびれもうけ

苦勞したのに成果が出ず、徒勞に終わってしまうこと。

179 まかぬ種は生えぬ

結果があるからには必ず原因がある。努力なくしてよい結果は出ないということ。

180 負けるが勝ち

争わず、あえて勝ちを譲ることで、一時的には負けていても、結果的に有利になり、勝ちにつながるということ。

181 待てば海路の日和あり

悪い状況でも、あせらずに待っていれば、そのうち良いことがあるということ。

182 丸い卵も切りようで四角

言い方ややり方次第で、物事がうまくいくこともあれば、喧嘩になってしまうこともあるということ。

183 ミイラ取りがミイラになる

相手を説得しようとしたのいつの間にか相手に同調してしまう。

184 身から出たさび

自分がしたことが原因で災難にあうこと。

185 見ざる聞かざる言わざる

自分に都合の悪いことや他人の欠点は、見ないふり、聞かないふりをして、余計なことは言わないようにすること。

186 三つ子の魂百まで

幼いころの性格は、一生変わらないということ。

187 実るほど頭の下がる稲穂かな

心の狭い人ほど偉そうにふるまい、優れた人物はむしろ控えめで、素直な態度でいること。

188 身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ

捨て身の覚悟で物事にあたって、はじめて成し遂げることができるということ。

189 昔取った杵柄

昔身に付けた技量のこと。また、それが年を取ってからも衰えないこと。

190 無理が通れば道理引っ込む

理屈に反したことが世の中で通用するようになれば、逆に理屈の通った正義は行われなくなるということ。

191 目くそ鼻くそを笑う

自分も似たような欠点をもっていることに気づかずに、他人の欠点を笑うことのたとえ。

192 目の上のこぶ

自分よりも立場が上で、何かとじゃまで目障りな人のたとえ。

193 目は口ほどにものを言う

感情のこもった目つきは、言葉に出すのと同じくらい気持ちを表すものだ。

194 餅は餅屋

物事は専門家に任せるのが一番である。

195 元の木阿弥

努力や苦勞が無駄になってしまうこと。

196 物言えば唇寒し秋の風

余計な発言で災いを招く。人の悪口を言うと、何となく後味の悪い気持ちになる。

197 桃栗三年柿八年

物事を成し遂げるまでには時間がかかるものだということ。

198 門前の小僧習わぬ経を読む

常日頃接していることは自然と身につくものだ。

199 安物買いの銭失い

安物は品質の悪いものや使いにくいものが多く、すぐだめになるので、結局は損をしてしまうということ。

200 痩せの大食い

痩せているくせによく食べる人のこと。また、痩せている人には、案外大食いな人が多いということ。

201 柳の下にいつもどじょうはいない

偶然うまくいった時と同じやり方をしても、いつもうまくいくとは限らないということ。

202 藪をつついて蛇を出す

余計なことをして、かえって損をしたり、災難にあったりする。

203 病は気から

病気は気持ち次第で、良くも悪くもなるということ。

204 よしの髓から天井をのぞく

自分の狭い知識や経験だけで、広い世界や大きな問題についてを判断しようとする。

205 寄らば大樹の陰

頼りにする相手を選ぶときには、できるだけ力のある人を選んだ方がいいということ。

206 弱り目に祟り目

不運なことや災難が、何度も重なって起こることのたとえ。

207 来年のことを言えば鬼が笑う

将来のことはわからないので、あれこれ言っても仕方ないというたとえ。

208 楽あれば苦あり

世の中は楽しいことはかりではないので、楽しいことの後には、必ず苦しいことが来るということ。

209 楽は苦の種、苦は楽の種

楽をしていると後で苦勞することになり、逆に、苦勞をしておくと後で楽ができるということ。

210 類は友を呼ぶ

気の合う人や似ている人は、自然に集まって仲間になるものだという。

211 瑠璃も玻璃も照らせば光る

才能や素質のある人は、どこにいても目立つということ。

212 労多くして功少なし

苦勞が多いわりに効果が少なく、報われないこと。

213 ローマは一日にしてならず

長い時間と力をかけて初めて、大きなことを成し遂げることができるとのこと。

214 論語読みの論語知らず

書物をよく読んでいても、本質を理解していない。また、書物から得た知識があっても、実行が伴わない。

215 論より証拠

議論するよりも証拠を示したほうが、物事をすっきり解決することができる。

216 若い時の苦勞は買ってでもせよ

若い時に苦勞しておく、その経験が後で役に立つ。だから若い時には進んで苦勞したほうがいいということ。

217 渡る世間に鬼はない

世間には、思いやりのない冷たい人だけでなく、困った時に助けてくれる親切な人もいるということ。

218 笑う門には福来る

笑いが絶えない家は、自然と幸せが訪れる。また、どんなに辛い時もくじけずに笑っていれば、幸せがやってくる。

219 破れ鍋に綴じ蓋

どんな人にも、その人にぴったり合う相手がいるということ。また、そのような人と一緒になればうまくいく。

220 和をもって貴しとなす

他の人と仲よくやっていくことが、何よりも大切だということ。